

ICS110 課題探求プロジェクト基礎B

1年 4クォーター + 春期休暇期間 (2週間)

担当教員	小幡 浩司
授業形態	演習 (福井大学で1週間の事前教育とタイで2週間の現地調査・研究を行う。プログラムは講義, 現地調査, ディスカッション, プレゼンテーションを通して実施。)
単位数	2
曜日・時限	金曜日・3~5時限

授業概要

【日本とタイのグローバル人材育成の比較調査・研究】

日本では、小学校の英語教育導入年次の前倒し (小5→小3) 議論が本格化, 高校・大学では、スーパーグローバル学校が全国で選出され, さらに, 政府からの大学助成金の額も, 各大学の国際化・グローバル化の度合によって左右されようとしている。今や, グローバル人材育成は日本の学校教育の柱となった。また, 国内市場の縮小から海外市場へのアクセスが地方創生の大きな柱となり, 地方におけるグローバル人材のニーズもきわめて大きい。したがって, グローバル人材の輩出, この文脈において日本の大学の役割と責任は益々大きくなっている。

さらに, グローバリゼーションが進行する中で, 国際, 国内, そして地域社会は日々変容している。日本の最高学府である大学に求められる最も重要な作業の一つは, グローバル人材の定義, 育成の目的と方法, さらにそのために解決すべき課題について, 再定義を繰り返し, それを実践することである。これは, 地域のグローバル化を牽引し, 地域の持続可能な成長, ひいては日本経済の再生と復活を可能にせしめる極めて重要なミッションであり, 大学こそがこの役割を担っていかなければならないのである。

この課題探求プロジェクト基礎Bでは, タイのグローバル人材育成を日本のそれと比較し分析を行うと共に, タイでの短期研修プログラムを通してタイのグローバル人材育成の具体的な取り組みを体験し学習することで, タイと日本それぞれの, グローバル人材育成の目的とその背景, 達成のための手段, そして課題を明確にする。

到達目標

- 1) 様々な人々とのコミュニケーション, ホームステイ・寮生活を通してタイの文化, 政治, 経済, 社会, そして教育制度など, さまざまな側面について知識を身につけ, 理解することが出来る。
- 2) タイのグローバル人材育成とその背景および目的を多元的に分析し, 理解することが出来る。
- 3) 日本のグローバル人材育成とその背景および目的を多元的に分析し, 理解することが出来る。
- 4) 国際化とグローバルなネットワーク形成, あるいはグローバルな展開が国際競争力強化と深く関連していることを理解することが出来る。

期待される効果

- 1) アジアそして世界の高等教育の潮流を理解し, 標準化と多様化をコンセプトとして, 日本の大学が行うべき改革と, 人材育成の方向性を読み取り, その施策を打ち出すことができる。
- 2) 文献, 資料のリーディング, ディスカッション, 小論文執筆, グループワーク, プレゼンテーションを通じて, 英語コミュニケーション能力や, 協働して物事を作り出す力, 協調性, 責任感等, グローバル人材になるために必要な能力, 資質が身につけることが出来る。

先修科目

なし

教科書・参考資料等

- 吉野耕作 (2014) 『英語化するアジア—トランスナショナルな高等教育モデルとその波及—』名古屋大学出版会
- 北村友人, 杉原美紀 (2012) 『激動するアジアの大学改革—グローバル人材を育成するために—』Sophia University Press 上智大学出版
- 山影進 (2012) 『新しいASEAN—地域共同体とアジアの中心性を目指して—』アジア経済研究所
- P. G. アルトバック, 馬越徹, 北村友人 (2006) 『[高等教育シリーズ]アジアの高等教育改革』玉川大学出版部

- Joseph Shaules. "The Intercultural Mind: Connecting Culture, Cognition, and Global Living." Intercultural. Intercultural Pr. January 20, 2015
- Davis Killick. "Developing the Global Student: Higher Education in an Era of Globalization (Internationalization in Higher Education Series)." Routledge July 8, 2014
- Peter Kell, Gillian Vogl. "International Students in the Asia Pacific: Mobility, Risks and Global Optimism (Education in the Asia-Pacific Region: Issues, Concerns and Prospects)." Springer, 2012
- Collins Brock, Lorraine Pe Symaco. "Education in South-East Asia (Oxford Series in Comparative Education)." Symposium Books August 15, 2011
- Ross Lewin. "The Handbook of Practice and Research in Study Abroad: Higher Education and the Quest for Global Citizenship." Routledge. June 23, 2009
- その他配付資料

授業の方法

①【講義】

講義形式の授業の場合、学生はリーディングアサインメントを必ずこなし、積極的な授業参加が出来るよう準備をしなければならない。

②【教科書・参考図書エッセイ】

学生は教科書・参考図書を読んで授業に臨むことを期待されているが、エッセイ執筆が指定されたものについては、それを作成し、提出しなければならない。

③【現地調査レポート】

福井大学でのレクチャーが終わると同時に学生はタイでの海外研修をスタートさせる。学生は、小、中、高、大学、地元企業、外資系企業、さらにタイ高等教育相などを訪問するが、指定された訪問において、学習したことを現地調査レポートにまとめ、提出しなければならない。

④【グループプロジェクト】

学生は小さなグループに分かれて、このコースのメイントピックに関連するある特定のトピックについて研究しなければならない。以下はトピックの例である。

- 1) 外国語教育と国際理解教育の現状、留学生交流状況（派遣・受入）
- 2) 大学のグローバル化と地域創生
- 3) アジアの政治的緊張関係と高等教育のブロック化とその拡大
- 4) アジアの経済成長と学生の流動性、および高等教育のブロック化とその拡大
- 5) 国際通用性と競争力強化（個人、組織、国など）
- 6) ローカル企業の採用状況（現地人か、外国人か）
- 7) 外資系企業の採用状況（現地人か、外国人か）
- 8) グローバリゼーションとタイ社会の変容
- 9) その他のトピックで指導教員から承認を受けたもの

学生は授業以外でグループワークを頻繁に行い、調査・研究をすることがきたいされている。また、各グループは、研究小論文を提出し、プレゼンテーションをしなければならない。

成績評価

- 1) 積極的授業参加：特別に配点は設けない
- 2) 教科書・参考図書エッセイ：30点
- 3) 調査報告レポート：20点
- 4) グループでの研究小論文：25点
- 5) グループでの研究小論文プレゼンテーション：25点

成績

30%	エッセイ
20%	調査報告レポート
25%	グループによる研究小論文
25%	グループによる研究小論文プレゼンテーション

授業スケジュール

【国内】 タイ出発前に福井大学で授業を行う。授業はミニ講義、ディスカッション、プレゼンテーションを織り交ぜながら進行する。

第1回：日本のグローバル人材育成

グローバル人材の定義，グローバル人材育成の背景について学ぶ。

第2回：世界の高等教育の潮流① 北米・ヨーロッパ

ボローニャ宣言とヨーロッパ高等教育圏の構築，その背景と狙いについて考察する。

第3回：世界の高等教育の潮流② アジア

域内の高等教育のブロック化，ブロック間の連携などその背景と狙いについて，さらに経済発展と学生の流動性の関係について考察する。

第4回：世界の高等教育の潮流③ オセアニア

留学ビジネス，新コロソ計画などオーストラリアの教育のグローバル化について考察する。

第5回：世界大学ランキング

大学の国際化と大学ランキングの関係について考察する。

第6回：タイってどんな国？

タイの文化，歴史，社会，経済，政治について，各グループでトピックを選び，ショートプレゼンテーションを行ない，タイについて基本的な知識を学ぶ。

第7回：タイの教育制度

タイの教育制度の特徴と，教育の課題について，各グループでテーマを決め，プレゼンテーションを行ない，タイの教育事情について基本的な知識を学ぶ。

第8回：タイのグローバル人材育成

タイのグローバル人材とは？育成方法とは？グローバル人材育成の背景と狙い等について学ぶ。

【タイ】 2週間

第1週目 前半（チョンブリー，タイ）

カセサート大学付属学校マルチリンガルプログラム（Kasetsart University Laboratory School Multi-lingual Program）を訪問，以下のような活動を行う。

- 1) 教職員による講義では以下のようなトピックを扱う。
 - ① 学校の説明，とくに小中高一貫教育とミッションについて
 - ② 母語話者教員による三言語主義（タイ，英語と，日本語 or 中国語）
 - ③ 短期留学プログラムを通じた国際理解教育
 - ④ 保護者，生徒達が学校に期待すること，学校が保護者，生徒に期待すること，
 - ⑤ 国，地域，大学が付属学校に期待すること，等。
- 2) 学生達は，日本文化，福井，福井大学についてのプレゼンテーションを行ったり，日本語を教えたり，会話パートナーになったり，カセサート大学付属学校生のプレゼンを聴くなどして，お互いの文化に対する理解深める。さらに，実際の授業や，諸活動への参加を通して，タイの学校文化を学び，日本の学校との違い，またその背景について考察する。
- 3) ホームステイをすることで，ホストファミリーからタイ文化についての知識をさらに深める。
- 4) 教職員，ホストファミリー，生徒に対し，グループワークの研究課題に関連する質問を行い，トピックについての調査研究を深める。

第1週目 後半（バンコク，タイ）

・カセサート大学付属学校インターナショナルプログラム（Kasetsart University Laboratory School International Program）を訪問，以下のような活動を行う。

- 1) 教職員による講義では以下のようなトピックを扱う。
 - ① 学校の概要説明
 - ② 授業が全て英語。インターナショナルプログラム設置の背景と狙い
 - ③ 保護者，生徒達が学校に期待すること，学校が保護者，生徒に期待すること
 - ④ 国，地域。大学が付属学校に期待すること。牽引役として背負わされている使命
- 2) 学生達は，実際に授業に参加，生徒，教職員と意見交換を行い，授業のレベル，内容の深さ，生徒達の英語力，タイの英語教育，英語の指導方法等，タイの学校教育について知識を深める。さらに，グループワークの研究課題に関連する質問を行い，トピックについての調査研究を深める。

・カセサート大学（Kasetsart University），およびを訪問し，以下のような活動を行う。

- 1) 教職員による講義では，以下のようなトピックを扱う。
 - ① 大学の国際化戦略とミッション
 - ② 英語開講科目の導入と教育・研究の質保証
 - ③ 高大連携と高大接続の狙い，現状そして課題
 - ④ 産学連携の現状。共同研究やインターンシップ制度等
- 2) 学生達は，実際に授業に参加。学生，教職員と意見交換を行い，タイの大学教育を体験する。さらに，グループワークの研究課題に関連する質問を行い，トピックについての調査研究を深める。

・マヒドン大学インターナショナルカレッジ (Mahidol University International College), およびマヒドン大学付属学校 (Mahidol University International Demonstration School) を訪問し、以下のような活動を行う。

1) 教職員による講義では、以下のようなトピックを扱う。

- ① 高校, 大学の概要説明, 全授業が英語, グローバル教育の牽引役としての大学のミッション, 大学の国際化戦略
- ② 高大連携と高大接続の狙い, 現状そして課題
- ③ 産学連携の現状. 共同研究やインターンシップ制度等

2) 学生達は, 実際に授業に参加。学生, 教職員と意見交換を行い, タイの大学教育を体験する。さらに, グループワークの研究課題に関連する質問を行い, トピックについての調査研究を深める。

3) マヒドン大学では, 学生のインターンシップで運営されている大学ホテルに宿泊すると共に, 接客からホテルマネジメントまでインターンシップを体験する。

第2週目 (バンコク・タイ)

タイに進出している福井県企業, さらに福井県事務局を訪問, タイの政治経済, 雇用状況, 日本企業の進出, グローバル化戦略と課題, ASEAN 統合のインパクト, 日本の大学に期待すること, 日本のグローバル人材育成教育に期待すること, タイのグローバル人材育成と日本のそれとの違い, 等について意見交換やインタビューから知識を深める。

タイ高等教育局訪問では, タイのグローバル人材育成について講義を受けると共に, グループワークの研究課題に関連する質問を行い, トピックについての調査研究を深める。

第2週目 (ペチャブuri, タイ)

ペチャブuri・ラジャパット大学 (Phetchaburi Rajaphat University) およびペチャブuri・ラジャパット大学付属学校 (Phetchaburi Rajaphat University Demonstration School) を訪問。

現地生徒, 学生とチームを組んで, 自分達で計画を立て, グループワークの研究課題に関連する質問を行い, トピックについての調査研究を深める。

学生は, 第2週目4日目にグループ研究小論文を終え, 最終日にグループ研究小論文についてプレゼンテーションを行う。

事前・事後学習

- ① 授業の項目は教科書・参考資料等にあげた項目に対応している。講義聴講の前に, 対応する項目を一読すること(予習)。
- ② 講義聴講の後に, 講義された内容・配布資料と共に対応する教科書・参考資料等の項目について理解を深めること(復習)。